

## フランス世界 Outemer 科学アカデミー100 周年シンポジウム参加

2023年5月26日のソルボンヌ大学大講堂における outemer 科学アカデミー100周年シンポジウムはおそらく2000人近い参加者の文字通りの地球規模の大シンポジウム大国際会議。圧巻でした。このグランド・サル・アンフィテートルは世界的歴史遺産でもある有名な場所。リシュリュー、デカルト、パスカルなどの多くの彫像が円形の壁にあって参加者を見渡している。ルネサンスフランセーズがその重要な共催者であることも誇らしいものです。4時間の講演、シンポ、対談、弦楽4重奏、独演、調印式を仕切った質の高い司会者ケリー氏の采配は見事であった。

ここにはフランスが植民時代の帝国主義国家だという違和感はなかった。コロナとウクライナで出口を失った世界の旧仏語圏諸国のリーダーたちは、この集まりをひとつの出口戦略にしようするという言葉が飛び交っていた。

広い演壇には平和の象徴である大きなオリーブの木が両側に設置され、グアドループ出身のクリスティヌ・ケリーの見事な総合司会はこの集まりを質の高いものにした。

新たなパンアフリカニズム、コロナとウクライナの後の世界への期待、英語文化支配に対抗する文化言語の多様性、アフリカ・南北アメリカ・太平洋と欧州の一体感、今、話題になっている「グローバル・サウス」をも超える地球の未来、そういう雰囲気漂っていた。

こういう世界的スケールで、その多くが旧植民地国の集いをフランス政府も一緒になって開けるフランスという国のふところの大きさと偉大さを感じた。100年後の次の200周年に集まろうとの呼びかけがすでにあっただ。

パリ在住のRFJ会員でピアニストの中野真帆子氏には最後まで一緒にこの歴史的な会議にご参加いただき深くお礼申し上げたい。

参考：2020年現在、フランスの海外県・海外領土は次の6つの地位に分類される。海外県・海外地域圏 DROM：グアドループ、マルティニーク、ギアナ、レユニオン、マヨット 特別海外領土：フランス領南方・南極地域（インド洋無人島群を含む） 海外自治体 COM：サン・ピエール・ミクロン、ワリス・フテyna、サン・バルテルミー、サン・マルタン 海外地方 POM：フランス領ポリネシア 特別自治体 CSG（collectivité sui generis）：ニュー・カレドニア 政府直轄領：クリッパートン



ソルボンヌ大学が誇る Grande Salle Amphitheatre